

## 令和7年度 第2回富田林市防災会議 議事概要

### 1. 日時

令和8年2月20日（金） 10時00分～11時00分

### 2. 場所

富田林市消防庁舎 4階議場

### 3. 出席状況

32名出席

### 4. 次第

あいさつ

#### 1 開会

#### 2 委員紹介

- ・令和7年度防災会議委員名簿
- ・会議席次

#### 3 案件

- (1) 前回会議からの経過について
- (2) パブリックコメントについて
- (3) 富田林市地域防災計画の改訂について

#### 4 その他

- ・情報共有

### 【配付資料】

資料1 防災会議 次第、会議席次

資料2 パブリックコメントについて

資料3 富田林市地域防災計画（修正案）

資料4 富田林市地域防災計画—修正の概要

### 5. 議事概要

議事概要は、以下のとおり。

#### 1 開会

富田林市 吉村市長より、挨拶。

#### 2 委員紹介

事務局より、各委員の紹介。

#### 3 案件

- (1) 前回会議からの経過について
- (2) パブリックコメントについて
- (3) 富田林市地域防災計画の改訂について

事務局より、前回会議からの経過、パブリックコメントの内容、富田林市地域防災計画の主な修正内容について、別紙（パワーポイント）により説明を行った。

#### 4 その他

参加委員より情報共有を行った。

##### 【質疑】

##### ①前回会議からの経過について

意見なし

##### ②パブリックコメントについて

意見なし

##### ③富田林市地域防災計画の改訂について

安岡委員：改訂内容については国や府の改訂を踏まえ、適切な手続きで非常に良い計画になったと思う。今後、成案になった際には、府の担当部署へご報告をお願いしたい。また、今回の改訂と各委員の所属との関係づけについて確認いただくとともに、災害時はもとより、日頃からこの地域防災計画をもとに取り組みを進めてもらい、不足や気づきの点があれば次回の改訂時に反映できるよう提案の準備をお願いしたい。

事務局：改訂した際は、気づき等とあわせて遺漏なく府へ報告する。地域防災計画は、継続的な見直しとスパイラルアップが必要であると認識しており、次回の改訂に向けても引き続きお願いしたい。

平野委員：P164、169の図について、現時点で「関西電力（株）」のみの記載だが、災害時には「関西電力送配電（株）」も一緒になって対応にあたるため追記をお願いしたい。

また、熊本地震では電力の復旧は5日ほどで完了したが、令和6年能登半島地震では電力の復旧に30日を要した。その原因としては道路啓開が進まず、復旧のための大型車が通行できなかったためである。道路啓開に時間を要することは非常に問題であることから、令和3年に道路啓開に関する覚書を交わした。しかし、それ以降大規模災害が発生しておらず有用性が確認できなかったが、この2月に予定している実施訓練に貴市危機管理室も参加してもらえるので、覚書の実効性を確認したいと考えている。これからも引き続き、訓練を実施するとともに、貴市からも訓練等に参加してもらうようお願いする。

事務局：資料については修正する。関西電力送配電には、本市にも声掛けをいただき、定期的に訓練や見学会を実施してもらっている。このような日頃からの訓練や顔の見える関係づくりは、実際の災害対応にも必ず活かされると考えており、各防災関係機関とは、日頃からの関係づくりや連絡調整を大切にしたいと思っている。

石田委員：地域防災計画において、自主防災組織が担う役割が多く記載されており、連合会は、各自主防災組織に共有したいと考えている。また、自分たちの地域は自分たちで守るという信念を持って、地域防災力の向上に貢献したいと考えている。

事務局：市としても、自主防災組織が円滑に活動できるよう、引き続き様々な支援協力を進めるとともに、連携を密にしながら地域防災力の更なる向上に努めていく。

土井委員：今回の修正で、男女共同参画の視点から女性委員の割合を高めることが記されているが、災害から受ける影響は男女で全く違うと思っており、女性自身が女性の目線で議論をするべきかと思っている。本市でも審議会等への女性の登用率40%を目標に掲げており、こういった会議で多くの女性が委員として参加できる仕組みを考えていければと思っている。

事務局：本課題については、非常に難しい面もあるが、防災会議の構成の枠組みの中で、構成組織との調整や新たな人材発掘等による女性委員の参画を検討していきたいと考えている。

議長：本日いただいた意見も踏まえ、事務局で必要な事務処理を行い、地域防災計画の改訂を進めていく。

各委員：異議なし。

#### ④その他

浅野委員：消防団による能登半島地震での発災直後の応急対応についての体験談を聞き、現場の過酷さを共有し、災害対応の想定が不十分であったことを改めて痛感し、減災について改めて考える機会となった。避難所におけるトイレ問題の深刻さ（特に女性が水や食事を控える状況）を聞き、市が進めるトイレトラックの導入には大いに期待している。復興は道半ばであり、応急復旧のみならず復興のあり方についても考える必要があると痛感した。そのためにも、各防災関係機関との更なる連携が必要不可欠であるため、よろしくお願ひしたい。

事務局：能登半島地震等の大規模災害時における災害対応においては、究極の判断をしなければならぬことを、あらためて認識することが大切であると思っている。これまでは予防・応急対策に重点を置きがちだが、今後は復興についても考える必要があると考えている。

梶谷委員：校区ごとの交流会議を通じて、発災時の避難に対する地域住民の不安が高まっていると感じている。安心して避難できる環境を整えるためには、日頃からの住民同士や関係機関同士の「顔の見える関係づくり」が不可欠であり、地域住民と一緒に安心できる避難について考えていきたい。

事務局：校区交流会議には危機管理室としても出前講座等で参加している。その中では、多様な主体の連携として消防団や自主防災組織にも協力をいただき、校区・地域ごとに防災の取組が推進されている。来年度も、継続されると思うので、よろしくお願ひしたい。

高委員：外国人向けの防災講座を開催したところ非常に関心が高く、「備えをしたい」「言葉を使わないコミュニケーションのワークが効果的だった」など、参加者から好評を得た。今後も日本語教室などで防災教育を継続して取り入れていきたい。

事務局：外国人市民向けの防災講座には、出前講座のサポートとして参加したが、言葉の違いによるコミュニケーションの難しさを目の当たりにした。計画には「要配慮者、女性や子育て家庭のほか、年齢や性別、国籍の違い、障がいの有無から生じるニーズへの配慮等、多様なニーズに適切に対応できるよう努める。」との記載を随所に行っており、関係機関の連携により、具現化できるように努めた。

小田委員：富田林病院は建て替えにより災害に強い病院となっており、市の災害医療センターとしての役割を担わないといけないと考えている。定期的に災害訓練を行っているが、地域の方との協同による訓練はできていないため、市や消防組合、消防団等と共に災害訓練を実施したいので、協力をお願ひしたい。

事務局：医療関係の訓練については、昨年に医師会や薬剤師会と共に医療救護所訓練を行ったので、今年はステップアップした訓練を実施したいと考えており、改めて関係機関には声掛けをさせていただきたいと考えている。

山口委員：近年相次いで発生する林野火災の予防を目的として、今年の1月から林野火災警報等の運用が開始された。期間は1月から5月までとなっており、発令条件については降水量が少なく乾燥注意報や強風注意報が発表された場合に行う。警報発令中は、林野への火の持ち入れや屋外での火の使用に関する制限を設けている。導入後の警報発令回数については、昨年に比べて非常に多くなっている。管轄として、林野が多くあることから林野工作車の導入についても検討している。

事務局：この件については、危機管理室と大阪南消防組合と密に打合せを行っており、市としてもウェ

ウェブサイトやSNSを通じて情報発信し、可能な限り協力したいと考えている。

植田委員：3月議会で市防災会議条例の改正が議案として提出されるが、その中に自衛官を委員に追加するというものがあった。自衛官を追加する目的と狙い、また、周辺自治体での防災会議委員の状況について伺いたい。

事務局：自衛隊は災害対応において重要な役割を担う組織であり、その専門的知見や実践経験を会議に反映させること、平時から関係機関との連携を深めて発災時の迅速かつ的確な対応につなげることを目的として考えている。周辺自治体での防災会議委員の状況については、把握している範囲で、南河内では河内長野市や河南町、府全体では大阪府や大阪市、堺市、高槻市、池田市などで委員として参画しており、本市としても次回の会議から自衛官に参加していただきたいと思っている。

## 6. 会議風景



以上